

現行制度における選択科目開講状況

— 論理国語・文学国語・古典探究 —

はじめに

現在の学習指導要領における現代文系の選択科目は、主に評論文などの論理的文章を学習する「論理国語」と、主に小説などの文学的文章を学習する「文学国語」という二つの科目が設定されています。そして、それぞれの科目の標準単位数は4単位です。前制度では、論理的文章と文学的文章の両方を学習する科目として「現代文B」があり、その標準単位数は4単位でしたから、現行制度において論理的文章と文学的文章の両方を学習する場合、前制度より4単位余分に単位確保をせねばならない状況となっています。こうした単位数の問題から、「国語の選択科目はどれを開講すべきなのか」という点に頭を悩ませていらつしやる先生方も多いのではないのでしょうか。

そこで、本稿では弊社国語教科書の採択状況や、弊社の営業部員が日々全国の高等学校を訪問する中で見えてきた、選択科目（論理国語・文学国語・古典探究）の開講傾向をまとめました。

1. 全体の半数近くを占める三科目開講校

最も多い開講パターンは「論理国語＋文学国語＋古典探究」の三科目開講です。前制度に比べると単位数が増えることになりましたが、他教科と単位数を調整したり、三科目のうちいずれかの科目を減単したりするなどして、なんとか三科目とも開講している学校が全体の半数近くを占めています。

ただし、このうち約半数の学校は、理系などの一部コースで「文学国語」を非開講にしています。つまり、三科目開講を基本としていますものの、他教科でも単位数確保が必要となる一部のコースでは、「文学国語」の開講を諦めている学校も多いようです。

2. 「論理国語＋古典探究」の二科目開講校

次に多いのは「論理国語＋古典探究」の組み合わせで二科目を開講するパターンです。大学入試での出題頻度が高い論理的文章と古典の学習を優先した結果であろうかと思われま

す。しかしながら、大学入学共通テストの出題状況などを考慮しますと、文学的文章をまつたく

3. 主流の開講パターン

無視するわけにもいきません。そこで、「論理国語＋古典探究」の二科目開講校では、小説や韻文に特化した副読本や問題集を使用することで、不足する文学的文章の学習時間を別途確保している学校も多いようです。

弊社の調査では、こうした「論理国語＋文学国語＋古典探究」の三科目を開講する学校と、「論理国語＋古典探究」の二科目を開講する学校で、全体の6割強が占められているという結果となりました。特に大学入試を視野に入れる進学校ほど、この二つのうちどちらかの開講パターンを選択している学校が多い傾向にあるようです。

先生方は単位数の確保に苦慮しつつも、現状ではこれら二つの開講パターンが現行制度での主流になってきているといえそうです。

(数研出版編集部)